

(中津川市)

令和元年度事例

【地域の概要】

中津川市は岐阜県の東南端に位置し、東は木曾山脈、南は三河高原に囲まれ、中央を木曾川が流れる豊かな自然と美しい景観に恵まれています。市域は東西に28km、南東に49km、面積は676.45平方キロメートルで、その約80%を森林が占める中山間地域です。

本市は、古くから東山道、中山道、飛騨街道などの交通の要衝として栄え、中核工業団地の完成により企業も多数立地し商工業都市として成長してきました。

一方、農林業では水稻を中心とした農業に加え、特産の夏秋トマトや栗、なす、飛騨牛などの農畜産物の生産に力がそそがれています。

取組開始前の状況や課題

○中津川市の農地利用集積の現状は、平成30年度において約807haで農地全体の約20%と低い状況である。

○担い手による集積も人手不足の影響で集積が望めない組織がある。

○山間地域では鳥獣被害も多く耕作がしにくい状況のところもある。

取組内容

○令和元年12月に市内全域の農業者（4,500戸）を対象に、**水稻共済細目書の配布とあわせて**、農事改良組合長より各地域へ農地利用意向アンケートの配布を行った。

○（アンケート提出先、回収方法、期限の説明を記載いただけないでしょうか）

○現在回収中であるが、約1,600戸の集計・入力作業を進めている。

○アンケート項目のうち、現時点での回答状況は、後継者がいない51%、農業の現状維持が45%、近い将来農業をやめたいが30%などとなっている。

今後の展開と方向性

○アンケートの集計結果にもとづき、**経営規模を拡大をしたい農業者及び担い手などに農地を貸したい農業者を対象に、農業委員・推進委員が中心となり戸別訪問による聴き取りを実施**。聴き取りでは、委員ごとに白地図を持っていき、農地の位置を確認しながら、借り受けや貸し付けの希望を色塗りしていく。

○アンケート結果や戸別訪問による聴き取りの結果を地図化し、地域での話し合いや意見交換、**農地貸借のマッチング**を行う。

○特に地域での話し合いでは、担い手を集め、現状より集積・集約が進むように、権利設定・移転について検討を行う。